

第4回 国道343号笹ノ田地区技術課題等検討協議会の概要

- 1 日 時 : 令和7年3月26日(水) 13時30分～14時30分
- 2 場 所 : 盛岡市勤労福祉会館4階401・402会議室
- 3 出席者
(委員)
南 正昭 岩手大学 理工学部 教授 (座長)
井良沢 道也 岩手大学 名誉教授
野崎 弥 岩手県 県南広域振興局 土木部 一関土木センター所長
吉田 健一 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター所長
小野寺 淳 岩手県 県土整備部 道路建設課総括課長



4 内容

【第3回協議会の意見を踏まえた対応の報告】

- 第3回協議会で説明した「冬期間の旅行速度調査」時の気象条件や路面状況を整理し、峠部における路面の圧雪・凍結が安全で円滑な交通を阻害していることを再確認。

【地質調査（空中電磁探査）結果の報告】

- 第3回協議会で確認した整備方針案（現道南側を通過するバイパス：以下、「整備方針案」という）において、地質境界を示唆する比抵抗*境界はトンネルが想定される範囲に13箇所あり、これらは断層（破碎帯）である可能性があることを確認。
- トンネルが想定される範囲のうち、陸前高田市側の低土被り区間や一関側に低比抵抗*域があり、不良地山が想定されることを確認。また、陸前高田市側は特に比抵抗*変化が大きく、地山性状が様ではなく複雑であることを確認。
- 地すべり土塊と推定される比抵抗*は測定されなかったものの、第3回協議会での整備方針案を受けて、航空レーザー測量データを活用した解析を行った結果、陸前高田市側に地すべり地形を判読。より詳細な現地調査が必要であることを確認。
- 現道北側は、地質課題を示唆する比抵抗*境界や低比抵抗*域の数が整備方針案の2倍程度存在することを確認。
※比抵抗：空中電磁探査により解析した地盤の電気抵抗。比抵抗が低い場合、帯水層や粘土分の多い風化変質岩など不良地山が推定される。

【技術的課題の整理】

- 整備方針案のトンネルが想定される範囲において、断層の可能性がある複数の地質境界、複雑な地山性状や不良地山、地すべり地形などの技術的課題が確認されたことから、広範囲で断層の位置や風化の程度などが確認できる地表地質踏査や弾性波探査により、検討の精度を高めていく必要があることを確認。

【整備方針案の具体的検討】

- 現道北側は、より多くの地質課題が確認されたことから、地質的にも整備方針案が優位であることを再確認。

5 次回協議会に向けた主な意見

- 空中電磁探査で広い範囲の地質データが得られたことにより、現道北側と比べると整備方針案が地質的にも優位であることが確認できた。
- 今後は、トンネルが想定される範囲の地表地質踏査などの地質調査を進め、空中電磁探査の結果と照らし合わせながら、精度を高めていくとよい。
- 複雑な地質条件の中で長大トンネルが想定されることから、地質のリスクについて知見を蓄えていくことが大事。調査を更に進め、より精度の高い内容としていただきたい。

6 今後の検討の進め方

- 今回いただいた意見の整理等を行った上で、次回の協議会では、地質調査結果（地表地質踏査、弾性波探査）の報告、それを踏まえた技術的課題の整理及び整備方針案の具体的な検討を行う。